＜AICPA カンファレンスでのスピーチについて＞

2011年12月14日
企業会計基準委員会 事務局

I. はじめに

2011 年 12 月にワシントン D.C において開催された米国公認会計士協会（AICPA）主催の全国大会において、SEC 主任会計士のジェームズ・クローカー氏（5 日）、FASB 議長のレスリー・サイドマン氏（6 日）が、講演を行っている。

そこで本稿では、クローカー氏の講演のうち「国際的な会計基準」に関する部分、サイドマン議長の講演のうち、「イントロダクション」と「国際会計基準」の部分について抄訳をしたので、それぞれ紹介する。

なお本稿は、公開された情報をベースに抄訳したものであるが、正確性を保証するものではない。より正確な理解のためには、下記のホームページに掲載されている原典を参照されたい。

http://www.sec.gov/news/speech/2011/spch120511jlk.htm

http://www.fasb.org/cs/ContentServer?site=FASB&c=Document_C&pagename=FASB%2FDocument_C%2FDocumentPage&cid=1176159498181

Ⅱ. クローカー氏のスピーチ

国際的な会計基準

当然のことではあるが、私が最近ある程度の頻度で受ける質問の一つが、SEC は米国の発行者への IFRS の組込みに関するアクションを 2011 年に起こすのかどうかというものである。この話題はすぐ後で扱うが、IASB と FASB のコンバージェンスのアジェンダの現状の説明から始めたい。

前提として、コンバージェンス・プロジェクトの遂行とその作業の成果は、スタッフが IFRS の組込みの問題を検討する上で重要である。2010 年 2 月 24 日の SEC のステートメントを思い出していただくと、MOU プロジェクトの完成が SEC の IFRS の検討に関連する要件として強調されていた。

SEC のステートメントの時点で、FASB と IASB には、両審議会が 2011 年半ばまでの完成を予定していた 1 ダース近くの共同プロジェクトがあった。ご承知のとおり、予定は変わり得るものであり、議論の対象が、最も広がりがあり複雑で、場合によっては政治的な異論も出されている会計の分野のいくつかを扱う報告基準の開発である場合には、なおさらである。

FASB と IASB の名誉のために言っておくと、両者は、追加の時間（審議とデュー・プロセスの追加による）が必要だと提案した関係者に耳を傾けたのである。こうした要望の多くが示唆していたのは、MOU プロジェクトが長期的な適用可能な持続性のある基準をもたらすためには、こうした対応が必要だったということである。両審議会は、私の考えでは賢明なことに、いくつかのプロジェクトを延期することにも同意して、少数の主要な MOU プロジェクトにより集中できるようにし、公開草案及び結果としての最終基準の公表に段階的アプローチが採れるようにした。

2011 年の年末に向けて考えてみると、主要な MOU プロジェクトの少数のグループについてさえ、まだ確定の何か月か手前である。結果だけを見て、両審議会は計画を果たせなかったと言うこともできる。一方、私の考えでは、歴史家（そう、会計の歴史家はいる）が振り返って成否を評価する際に、この企ての成否は、どれかのプロジェクトの完成の時期で評価すべきではないし、そうはならないであろう。また、公開草案の公表の段階的アプローチを提供するために時期を延期したのかどうかで評価すべきでもない。少しばかりの時の砂に焦点を当てるのではなく、成否の評価は、結果としてもたらされるアウトプットの品質によるべきであり、最終的にそうなるであろうと私は考えている。

では、それは我々を離れてどこへ行くのか

多くの面で、非常に元気づく理由があると私は考えている。例えば、最近、コンバージェンスした基準がいくつか確定して、その他の包括利益で報告される項目に関する透明性の増大をもたらすとともに、両審議会は財務報告目的で公正価値をどのように測定すべきかに関する完全にコンバージェンスされたガイダンスを有している。これらのプロジェクトは、定義はどうであれ「主要な」コンバージェンス・プロジェクトとは一般に見られていないかもしれないが、国際的な比較可能性の影響は過小評価すべきではない。

収益とリースのプロジェクトに関しては、国際的に一貫した基準への見込みは、焦点がはっきりしてきて現実に近づいている未来図である。両方のケースにおいて、両審議会は提案からの変更を行い、その多くは、複雑性と運用可能性に関する懸念に対処して、実用主義の手段を導入しようとする努力と考えられている。両審議会がこれらのプロジェクトを再公開とした決定は、好意的に受け止められた。関係者は完成したプロジェクトとしての基準に関する変更を評価する機会を望んでいる。私は、特に損益計算書の最初の科目を扱っている場合には、これは不合理な要求ではないと考えている。

金融商品に関する両者の MOU プロジェクトに関しては、コンバージェンスした解決策への見込みは、現在までのところ、それほど元気づけられるものではない。両審議会は改善した減損モデルに関して共同で建設的に作業しているが、こうしたモデルの確定への期間はまだ不明である。残念ながら、金融商品プロジェクトの他の局面については、コンバージェンスした高品質の解決策への見込みはさらに不確実である。

したがって、決定的に重要だと私が引き続き考えているのは、MOU プロジェクトのそれぞれに関して、両審議会が、コンバージェンスした高品質の解決策の見込みを最大にするためのすべての合理的な手順を踏むことである。ヘッジは一例である（他に相殺などがある）。両審議会は、金融商品プロジェクトにおけるヘッジ会計の検討のアプローチに関して、足並みが揃っていない。多数の概念上・運用上・実務上の疑問が、現在までの提案に基づいて提起されており、これらは両審議会が共同で検討すべきものと私は考えている。私の考えでは、長い目で見れば、歴史はこの企てをずっと好意的に判定するであろう。共同プロジェクトに、統合されたチーム、共同の審議及び予定表の共有を与えるすべての必要な手順が取られた場合には、である。結果へのこうした投資は、これらの問題を個別に審議することで認識される利得よりも、ずっと有益であることが判明するであろう。

全員ではないにしても大半の方々がご存知のように、スタッフは、SEC が米国の発行者への IFRS の組込みの決定にどのように進むことができるか、あるいは進むべきかどうかを検討する作業プログラムを実行してきた。先ほど述べた 2010 年 2 月の SEC のステートメントでは、ワーク・プランの実行が、FASB と IASB の現行の作業計画のコンバージェンス・プロジェクトの完成と合わせて、SEC を 2011 年という早い時期に決定を下せる状態に置くものとして設計されていた。

私は今朝ここにSECがどのように進むのかを発表するためにいるわけではない。その決定は、当然ながら、SECの行動によってしか議決できないものである。

私が言えるのは、スタッフは現時点でワーク・プランに関連した「フィールドワーク」の大半と私が考えるものを完了したか又は完了の最終段階にあるということである。その点で、スタッフは最近2つの進捗状況報告をスタッフ・ペーパーの形で公表した。第一は、US GAAPとIFRSとの差異の比較である。第二は、世界中でのIFRSの使用の分析である。私はこれらのペーパーに関する企業財務部とOCA（主任会計官室）のスタッフの作業に非常に満足しており、これら2つの報告書を研究されるよう皆様にお勧めする。両方ともSECのウェブサイトで入手できる。Shelly LuisiとNili Shahが本日このあと概要をご案内する。

我々は、ワーク・プランに基づく最終の包括的な報告書の完成を依然として公約している。それは我々のこれまでの進捗状況文書に具体化された高品質の報告と整合的なものである。その点で、スタッフは最終報告書を作成するために追加の数か月程度の時間を必要とするであろう。同時に、スタッフは委員会の検討のためのアプローチを作成中である。我々のアジェンダにある項目の数を考えると、正確な日程は申し上げられない。私が言えるのは、我々は、一般投資者及び資本市場の最大の便益を生じる理想に導かれて、その作業を注意深く入念に行うであろうということである。

もう一つ言えるのは、私はIFRSの組込みの見込みに関して元気づけられているということである。とりわけ、潜在的な組込みのアプローチを検討した5月のスタッフ・ペーパーに対して寄せられたインプットを考慮し熟考する時に、である。

しかし、MOUプロジェクトの完成と同様に、砂時計の中の一粒の砂の経過は、この機会を利用して強固で永続的な枠組みの設定を確保することに比べてさほど重要ではないと私は考えている。枠組みは次のようなものであるべきだと私は考えている。

- 国際的な整合的な高品質の会計基準の継続的な開発と使用への米国の公約に対するハイレベルの支持を示す。
- 事実と実質的運用の両面で、米国の資本市場で適用される基準に対する明確な米国の権限を与える。
- 国際的な会計基準の設定のプロセスに強力な米国の声を提供し促進する。
- 経済及びその他の変化の影響に的確に反応する。
- 米国の財務報告の基礎としての「US GAAP」を維持し、それにより、規制上の制度・契約文書・米国の法律の下での新しい基準のセットの導入のコスト及び複雑性を軽減するべきかどうかを検討する。そうした制度等ではUS GAAPへの準拠が具体的に考慮されていることが多い。

Ⅲ. サイドマン氏のスピーチ

イントロダクション

おはようございます。

この素晴らしい会議の一環として、ワシントンに戻れたことを光栄に思う。ここ 12 カ月間の私のカレンダーをめくった際、我々がすべて取扱った重要問題の数とその達成状況に感心した。私は、そのために積極的な役割を果たしてくれたこの部屋の人々に感謝する。私は、ハンス（IASB 議長）に、この会議に来ているのは、監査人及びその分野の他の専門家で、プロセスに深く関与し、真に財務報告に関心を持っている人々であることを説明している。今朝は、この 1 年の重要な開発の一部を議論し、また、今後 1 年間に我々が検討すべき問題を取り上げたいと思う。私が約 25 分間話をして、次にハンスが話し、その後に質問に答えたい。

話を続ける前に、今日の私の発言は、FASB の公式見解ではなく、私個人の見解を反映したものである。

今日、我々の部屋には 2 頭の象がいると思う（パルティザンのようなものを意味しているわけではない）。1 頭は国際会計基準であり、もう 1 頭は非公開企業の会計である。幸いに、ここは非常に大きなホールであり、我々全員が入る余地がある。専門的職業や資本市場及び企業が直面している最も重要な問題は 2 つあり、我々が、これについて率直で建設的な議論をすることが重要と考えている

ここで議論のための準備をしたい。会計基準が存在する理由は、現在の投資者や潜在的な投資者及びそれ以外の財務報告の利用者が企業又は非営利団体に資源を提供するかどうかを決定する上で有用な情報を提供することである。これは、財務報告[1]の目的について新しく収斂された概念書からそのまま引用したものである。大規模な国際的な投資家と小規模な国内の貸手は、財務報告を手に入れ、同一の取引に対して各企業が首尾一貫した会計処理が行われているというある程度の保証を得たいと考えている。したがって、会計基準の設定の目標は、顧客のニーズに基づいている。言い換えると、ユーザーに焦点を合わせている。

企業は重要な役割を果たしている。取引を生成し基準を適用しなければならないからである。同様に監査人は、企業の基準の適用について意見を表明しなければならないので、彼らの意見も同様に考慮しなければならない。すべてのプロセスは、資源の提供者への便益と情報を提供すること（又は提供しないこと）のコストとのバランスをとる必要がある。しかし、間違ってはいけないのは、財務報告の主な目標は、資金を投資するかどうか又はどのように

[1] FASB 概念書第 8 号、「財務報告に関する概念フレームワーク」2010 年 9 月

投資するかを決定しようとする人々の役に立つことだということである。

これは明白なことに思えるかもしれないが、残念ながら、この目標は、この両方のテーマを議論する際に時として見失われることがある。しかし、この目標は、国際的な会計と非公開企業の双方の問題に関する FASB にいる我々の考え方の核心にある。

国際会計基準

まず、国際会計基準について話そう。

FASB は高品質で、比較可能で国際的な会計基準を開発するという目標を長い間支援してきた。会計基準の設定に関する 1999 年のビジョン・ステートメント[2]から引用する。

「FASB が国際会計基準設定プロセスに参加する目的は、米国における高品質な会計基準を維持する一方で、国際的な比較可能性を向上することである。」

私はこれを二重の目的と呼ぶ。

ビジョン・ステートメントは、高品質な基準の属性を次のように説明している。

1. 基礎となる概念フレームワークと整合している。
2. 選択可能な会計処理は避けるか又は最小限にする。比較可能性が情報の有用性を高めるからである。
3. 基準の適用、基準の強制及び結果として生じる情報の利用をしなければならない人々にとって、曖昧でなく理解しやすい。
4. 類似した事象及び取引が期間ごとに又は企業間で同様に会計処理されるように、厳格な解釈及び適用が可能である。

この属性のそれぞれが、財務情報の目的適合性や比較可能性を促進する。

コンバージェンスと米国における財務報告の改善という FASB の二重の目的が、FASB と IASB との間の当初の覚書（MOU）に関するテーマの選択を導いた。すなわち、それらの基準は単に異なっているだけではなく、両審議会が改善も必要と考えていたものであった。

明らかに、我々は、USGAAP と IFRS の間の差異を狭めることにおいて、共同で重要な進展を遂げ、同時に基準を改善している。例えば、企業結合、非支配持分、公正価値測定、借入費用、セグメント報告やその他の多くについて我々の基準を実質的にコンバージェンスしている。この作業の大部分を完了させた際に指揮をとったデイビッド・トゥイーディー卿（IASB 前議長）、ボブ・ハーツ氏（FASB 前議長）、及び我々の素晴らしいスタッフにこの

[2] 国際会計基準の設定　将来へのビジョン　FASB1999 年

機会にお礼を述べたい。

我々は依然として、他の非常に重要なプロジェクトへの対応に熱心に取組んでいる。これには、収益認識、リース、金融商品、保険契約などがある。ご存知かもしれないが、我々は、収益認識の 2 番目の公開草案を公表したばかりで、新たなコンバージェンスした基準を提案している。これらのテーマは過大が多く世界中でさまざまな意見があるが、最終的には、すべてについて差異を解消し、重要な分野で改善しコンバージェンスした基準を設定することができるだろうと楽観している。

今日のこの後に、我々のテクニカルディレクターの Sue Cosper と Alan Teixeira が、これらのテーマについてより詳細に話をしてくれる予定である。

しかし、我々はそこからどこへ行くのか？

コンバージェンスについて考える際に、アメリカの詩人オグデン・ナッシュ氏の言葉を連想する方もおいでかもしれない。「進歩はかつては良かったのかもしれないが、あまりにも長く続き過ぎている。」

困難が多く、後から考えると、あまりにも野心的な範囲であったが、私は、コンバージェンスのプロセスは、複数の重要な分野で国際的な財務報告を前進させたと考えている。しかし、横並びのコンバージェンス・モデルは長期的には最適なモデルではないと考えている。

昨年のこの会合で、SEC スタッフの Paul Beswick 氏が「コンドースメント・アプローチ」[3]（その後、SEC のスタッフ・ペーパーでより詳細に公表）を紹介した。そのペーパーでは、コンバージェンスと IFRS の組込みに関する非常に異なるアプローチや、FASB の新しい役割を検討していた。このため、FASB 及び FAF の評議員会（FASB の監督機関）は、この潜在的なアプローチに関して SEC スタッフに送付する建設的な回答に非常に関心を持った。

先月、FAF の議長は、評議員会を代表して、FASB と協議の上、SEC スタッフ[4]にコメントを提供した人々の多くが挙げた懸念に対処するための若干の修正案と明確化を加えて、コンドースメント・アプローチを支持するレターを SEC に提出した。

我々のレターでは、将来の会計基準の基盤となる IFRS への強い支持を表明しているだけでなく、識別された移行リスクを和らげるための建設的な提案を示している。すなわち、我々は、米国で幅広い支持を得る可能性がある修正組み込みアプローチを提案している。

評議員会が提案した方向性は、IFRS を US GAAP に長い時間をかけて組み込むことである。評議員会が提案し FASB のメンバーが強く支持したアプローチの重要な要素は、次のと

[3] SEC のスタッフ・ペーパー　考えられる組込方法の探究 2011 年 5 月 26 日

[4] Brennan, John J.の証券取引委員会長官 Elizabeth M. Murphy 宛のレター 2011 年 11 月 15 日

おりである。

1. FASB と IASB は、IASB との優先的なコンバージェンス・プロジェクトを完了する。
2. 米国は、IASB に新しい会計基準の設定を求め、我々は（共同で）そのプロセスに積極的に参加する。最終基準を US GAAP に組み込むことを承認する立場となることが目的である。このプロセスの重要な要素として、投資家の優位性、独立の基準の設定、しっかりとしたデュープロセス、よく検討されたコスト・ベネフィット分析、明確で十分なガイダンスがある。
3. 我々は、「US GAAP」の名称を維持する。借入契約条項（ベンチマークとして US GAAP を参照していることが多い）の変更の必要性等のいくつかの実務上の問題を避けるためである。
4. FASB は、US GAAP と IFRS の残りの差異を評価し、それに対処する計画を立てる。これは移行の問題であるが、明らかに、計画全体の中で非常に重要な要素である。
5. FASB は、次のような場合に米国のための基準を設定する能力を維持する。相当重要なテーマであるが IASB の活動中のアジェンダにない場合、及び IASB が適時にまた十分な適用ガイダンスを提供しない場合である。

このような各要素の背景にある根拠について詳しく述べよう。

まず、コンバージェンスのフェーズでは、IASB とともに収益認識、リース、金融商品及び保険の優先プロジェクトを是非とも完了したい。しかし、我々は、曖昧なコンバージェンスは、政治的にも実務的にも、実行可能な選択肢ではないと考えている。観察者が見て取れるように、このプロセスは技術的にも管理的にも困難が多い。さらに、我々は、IASB が国際的な機関として、IFRS をすでに採用した他の国々の優先事項に対応しなければならないことを承知している。

次に、我々は米国のための新しい会計基準を設定する際に IFRS を参照する。これは、会計基準のための基盤として、米国が IFRS を受け入れ、前進することを公式に発言することになる。FASB は、IASB の活動中のアジェンダにある基準の設定を差し控え、共同で新しい問題を議論するテーブルには着かない。しかし、FASB はインプットを蓄積し、調査を行い、現場作業をまとめ、適用ガイダンスの必要性を判断し、米国の利害関係者と共に適用後レビューを行うことになる。それは、IASB はこれらの活動に参加するが、FASB は米国での取りまとめの中心になるということである。

この種の役割は、他国の基準設定主体により支持されている。国又は地域で基準を最終的に承認するために、これらのプロセスに積極的な参加者とならなければならないからである。

FASB と他の米国の利害関係者が大きな役割を果たすことの利点は、我々が活動的な参加

者としてプロセスに満足する可能性が高まり、最終的に、我々が基準を承認する可能性が高くなることである。そうは言っても、我々が主要な基準の変更の承認を考えるのは、一般投資者への報告の改善となり、企業による適用と監査人による適切なコストでの監査ができる場合のみである。最初に話したとおり、これは常に我々の二重の目的であった。この文脈で、我々は単に、我々は市場で幅広い経験を持ち、米国の株主の考えを理解するのに最もふさわしい立場であると認識しているだけである。

また、私は、IASB が基準の開発を進めるために、強力な国又は地域の基準設定主体の能力や資源を活用し続けることができることに注目している。例えば、IASB は、欧州財務報告アドバイザリーグループ（EFRAG）と協力して、開示についての今後の概念書又は基準の基礎として、我々が開発中の開示フレームワークを検討することに合意した。

残っている差異の評価に関して、米国は他の国とは出発点が異なる。現実に目を向けると、我々には、好むと好まざるとにかかわらず、また、すべてが適用されているかどうかを問わず、多くの GAAP がある。料金規制のような IFRS では明確でない会計基準の分野での GAAP を廃止することは、投資者にとっての最善の利益にはならないと考えている。つまり、一部の分野では、IASB がプロジェクトに着手して世界のための新しい基準を設定するまで、我々は US GAAP に従うことになる。

私は、「我々の基準が IFRS と矛盾しない限り、我々はまだ IFRS に従っていると言えるのだ」と、一部の人が言うのを聞いたことがある。率直に言って、世界の他の人々が、我々の US GAAP に従わない場合、それがどのようにして世界の投資家にとって透明となるのか分からない。私はむしろ率直に、移行の問題として維持し続ける基準を識別し、これらの論点について IASB が対処していくに従ってリストを減らしていきたい。水面下で重要な差異が残っている場合に、我々は単一の国際的な会計基準を持っていると言うことは投資家にとって有害と考えている。

我々双方に基準があるが両者が異なっているケースについて、私は、残っている差異を見て、こう質問する。これらの差異は重要なのかと。

- 明らかに、一部は重要である。例えば、研究開発における US GAAP と IFRS との相違は、一部の企業や投資家にとって中心的な問題である。
- その他の包括利益（OCI）から純利益へのリサイクリングについても同様である。我々アメリカ人はリサイクルするが、IFRS では、大部分の OCI 項目はリサイクルしない。

私の考えでは、IFRS の基準が US GAAP と同じ品質であると考える場合には、我々はその IFRS の基準の採用を提案するであろう。その場合、改善がもたらされるのは、基準自体からではなく、国際的な比較可能性の向上によってである。我々は、IFRS の基準の品質又は運用について懸念がある場合には、我々がその基準を組み込む前に問題に対処することを

IASB に求める。我々の要望と他の国々の要望が一致することが理想である。例えば、我々の理解では、他の国々もリサイクリングや偶発損失の会計処理を再検討したいと考えている。

XBRL タクソノミーの相違も考慮しなければならないと思う。US GAAP のタクソノミーは IFRS のタクソノミーよりも非常に大規模である。その理由の 1 つは、我々の方が広範囲の GAAP の規定があるからであるが、実務上、一般的に使用されている要素を組み込んでいるからでもある。データー集計業者やアナリストへのアウトリーチが示すところでは、彼らは、共通要素は非常に役立つと考えている。大量の特製のタグを取扱わなければならなくなることや、さらに悪いことに、既存のタグが「十分にクローズである」と企業が判断した際に生じる可能性がある標準化に比べてである。明らかに、このアプローチに対する最も効果的な方法は、関連基準の組込みに関して採られる方向性に左右される。

また、我々は、国際的な基準の適用方法には相違があり、次のことの理由を理解することが重要であることも学んだ。

- 基準が代替可能な方法を容認したり、あまりに一般的な内容となっている場合がある。
- 企業が基準を意図されたとおりに適用しないおそれがある。

実務における IFRS に関する最近の SEC スタッフ分析[5]では、これらの論点が詳細に検討されている。しかし、理由は何であれ、我が国が世界で一貫して適用されていないと分かっている基準に移行することの費用対効果には非常に疑問がある。「たとえ US GAAP であっても、企業が基準を適用する方法には必ず差異がある。」と、人々が言うのを聞いたことがある。そのとおりだが、ここで話しているのは、変更を行うための多額のコストについてである。変更を行うためにコストをかける価値があると判断するためには、国際的な比較可能性の向上という便益が現実のものとなっているべきだと思われる。

仮に、SEC が FAF の評議員会が示したようなアプローチを進める決定をするとした場合、FASB はこれらのさまざまな種類の差異を識別するためのフレームワークを確立し、差異を解消するための最適な方法に向けての計画をたてることになる。明らかに、我々はその分析に関する幅広いインプットを求めることになる。また、我々はできるだけ効率的なプロセスで進める方法を探すことになると断言しておく。

大事なことを言い忘れていたが、評議員会は　IASB の活動中のアジェンダにはない技術上の問題についてアジェンダを設定する能力を FASB が保持するよう提案している。これは、おそらく国際的に最も議論を呼ぶ点であろう。単一の基準への目標を損なうと判断される場合があるからである。ある欧州の会計士が私に言ったように、「イエス…だがノー」と我々

[5] SEC のスタッフ・ペーパー　実務上の IFRS の分析　2011 年 11 月 16 日

が言っているように見えてしまう。その件について私は次のように考えている。

我々は常に、米国での重要な問題に対処する機敏で反応の良い主体を必要としている。問題を他の国と共有しているケースでは、我々は IASB 又は IFRIC が論点を取り上げるよう説得して、そのプロセスに参加することを望むであろう。しかし、彼らがそうしない場合には、我々が米国のためにその問題に対処し、その後に IASB が幅広い利用のために基準を検討することができよう。

これについて考えるべきことがいくつかある。IASB は、世界の大部分が長く待ち望んできた世界的なアジェンダ協議の途中である。我々は、IASB がそれらの地域的な懸念に対処するプロジェクトを追加することを期待している。第 2 に、多くの関係者が、新しい基準への移行ができるようにするための静止期間を設けることや、IASB が今後数年間は概念フレームワークに重点を置くことを求めている。しかし、私は、米国の会計人として、静止期間を未だに経験したことはなく、迅速な対応を要する緊急問題が引き続き現れると予想している。したがって、言ってみれば、これは安全策かもしれないが、我々の文化にとって非常に重要なものと考えることができる。

私の考えでは、このアプローチは、米国が従う新しい国際的な基準の確立に関して IASB への強い支持を示すことになり、また、従来からの基準の調整を続ける合理的な移行プロセスを採用することになるだろう。

私は、この重要な問題に対処するために SEC の委員、SEC スタッフ及び、彼らが今まで行ってきたプロセスを非常に尊重している。我々のコメントを、我が国にとって最適なアプローチの判断を進める上で建設的かつ有用なものと彼らが考えることを期待している。

以上